

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700223		
法人名	一期一会福祉会		
事業所名	グループホーム岩倉一期一会荘 1ユニット		
所在地	愛知県岩倉市北島町七反田35番地		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	平成24年 4月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2374700223&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を多く持っている。「地域との交流を大切にしたい」との思いから、地元のお祭り、市民文化祭等へ参加している。また、1ヶ月に一度外出ツアーを企画しており、外へ出ることで季節ごとの景色を見たり、ご利用者様同士お話をしたりする喜びを感じていただいている。いつでも、ご利用者様が散歩に行くことができ、多くの方の日課となっている。毎日の生活において落ち着いた時間が流れており、家庭的である。家族会を定期的に開催している。会を重ねるごとに参加していただけるご家族様が増えてきており、準備からお手伝いしていただいたりと、ご家族様の協力を得られるようになってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族アンケートの回答内容が良く、満足度(やや満足も含む)は97%を超えている。特に顕著なのは自由記述のコメントで、「職員の皆さん全員が利用者及び家族に対して本当に優しく接して下さり感謝の気持ちで一杯です。」「母自身が『幸せだよ!』と、よく言ってくれるのはありがたい。」等の賞賛の声がたくさん述べられている。この事は、家族会や運営推進会議、家族来訪時に意見・要望をうかがい、丁寧に対応したり、又毎月の「便り」でホーム全体の動き・利用者の近況を報告し、ホームの支援内容を家族が十分理解出来ている結果と思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らしていただく一期一会の家」を理念として、管理者と主任と職員が日頃から話し合いを行っている。そして、ご利用者様に自分らしく暮らしていただく為にはどうしたらよいかを考え、実現している。	理念の周知のステップを経て、理念の実現の段階にある今日、『利用者に対してどの様な働きかけを行いたいのか?』を職員で議論して各職員が個人目標を定め、目標の達成に向けて挑戦している。	個人目標の設定は素晴らしい事であるが、達成度の評価が難しくも思われる。達成度を容易に評価できる数値目標(件数・人数等)を掲げ、職員が達成感を味わえる取組を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、市の文化祭にも作品の展示を行うことで、地域の一員であることを知っていただくよう取り組んでいる。また、それまで住んでいた地域の喫茶店などに行っている。	夏祭りへの参加が縁となり、地元の主婦仲間・子供達(10組20人)がハロウィンの仮装姿でホームを訪れ利用者を喜ばせた。祭りでは、お神輿・獅子舞のコースとなり、利用者はご祝儀を包み、涙を流して喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩倉市の認知症サポーター育成事業があり積極的に協力している。見学希望者の訪問も積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議にて前回の議事録を配布し、議題に挙がった検討課題の進行状況・結果等報告している。常にサービスの向上に活かすことが出来るよう努めており、家族会の内容にも意見を反映している。	包括・民生委員・利用者・家族・職員(庄長・主任・職員2名)を構成メンバーとして、年6回開催。検討課題の進行状況、結果報告に対し、意見を出し合っている。家族会と合同で、地域の施設等の見学を行っている。	参加メンバーとして知見者(他のグループホームの管理者等)へ参加を呼び掛けて欲しい。参加しているメンバーも、他のホームでの取組や情報は大変参考になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岩倉市が委託している介護相談員を受け入れており、意見の交換等を文章で残すことで、岩倉市の担当者も把握している。また、運営推進会議へも参加していただいている。	介護相談員の受け入れや、市の小学校5年生を対象とした『劇を通しての認知症サポーター養成活動』に劇団員として参加している。常に市役所担当者とコンタクトがあり、適切に情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルの設置や、会議の議題として取り上げ、常に身体拘束がないよう注意を促し、勉強会を開き正しい理解に努めている。	庄長・職員共、身体拘束による弊害を熟知し、身体拘束をしないケアを実践している。又、勉強会で身体拘束に関しての知識を深め『机の下に車イスを入れる』事で利用者の自由の妨げになる等、何げない生活の場での対応について確認合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待廃止のマニュアルの設置や、会議の議題として実際の事例を取り上げるなどして、常に虐待がないよう注意を促し、勉強会を開き防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされている方はいないが、必要があれば対応できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いて話し合える場所と時間を提供し、説明・契約を行っている。入居後も随時質問に対して、十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リビングにご利用者様の意見を受ける意見箱を設置し、意見があった際は、速やかに対応できるよう努めている。また、介護相談員が職員を通さずにご利用者様の苦情を聞ける環境が出来ており対応している。	意見箱・家族会・運営推進会議・介護相談員・家族来訪時等、利用者・家族が意見・要望を言える機会が多い。家族会での家族の『車イスでの病院送迎』の意見に対し、『市への交渉結果』等で丁寧に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の採用等に関しても現場の意見を聞いて行っている。日頃から管理者との話し合いが行っている。	荘長は利用者・家族の意見を傾聴すると同様に、職員の意見をも傾聴し、ホーム運営に反映させている。ユニットで自発的に行っていた勉強会を、職員の提案で、2ユニット合同の勉強会に発展させた事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、半年ごとに目標シートを作成し、達成度を確認しながら助言し、向上心を持ち続けることが出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間中は各業務のマニュアルを配布し、指導者にも研修マニュアルを配布して、計画的に育成している。また、年に2回人事考課面接を行い、職員と共に課題を考え取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での交流をもとに、相互の問題点を話し合う日程や時間を設け、ネットワーク作りに取り組んでいる。また、相互の勉強会に参加する事で、現場の職員同士で意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の施設への見学を促し、ご利用者様との交流や職員との顔合わせを行っている。また、個別で話し合う場を提供し、不安の無いように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日程・時間を設定し、施設内外の情報や方針について話し合う場を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接施設との協力体制が確保されていることを伝え、サービス内容の説明も行っている。必要に応じ、サービス担当者にも同席してもらい、より詳細な内容を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご利用者様と向き合う姿勢をとっている。 共感し共に取り組む事で、日々の生活を支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の健康状態について、随時ご家族様への連絡・相談・報告を行い、協力を得られる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に本人の馴染みのある場所への外出を企画している。	外出ツアー検討の際、利用者の馴染みの場所も考慮に入れ、『喫茶店に行きたい』と言えば、家族に馴染みの店を確認して実行している。月2回のミサに家族が連れて行き、3ヶ月に1度は牧師が見える利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行うことにより、他者との交流を図っている。日常生活面では、食事作り・洗濯・掃除等をもに行うことが出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一期一会のご縁を頂いた方々なので、必要な場合には対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先している。出来る限りご利用様が自由に活動できるような職員体制となっている。	どのような生活をしてきたかを把握し、懐かしがる言葉かけをし、利用者が生き生きする表情を引出している。職員としても忘れたいので連絡ノートに記録し、毎月のカンファレンスでプランに反映させている。	日常生活を通じて職員が把握した新しい生活歴について、職員個々や日常の記録の中に埋もれさせてしまうのではなく、個別記録の充実を進める事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人ファイルに情報を収集し、過去の情報を見やすくまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常状況観察表を中心として、情報把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族様と相談し、介護計画を作成している。また、ご利用者様の希望も取り入れている。	『利用者が一番の望みは?』と、家族の意向を聞き、本人本位で計画を立てている。寝たきりの利用者が『喫茶店』の思いを語れば、『普通だった馴染みの喫茶店に行く』計画を立て、思いを叶えた事もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常状況観察表と共に介護計画書を常に確認できる状態にしている。気づきや工夫においては、申し送り記入欄や連絡ノートにて情報を共有出来ており、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接施設があることの利点を生かし、様々な状況に対応している。また、ご家族様に一緒に泊まって頂ける環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の望まれるような慰問を受けたり、学校との文化交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療関係者の理解を得ており、診察、往診を受けることができる。	ほぼ全員の利用者がホーム提携医(内科・外科)をかかりつけ医として週1回の往診を受け、専門医(眼科・歯科・整形・皮膚科)の通院付き添いは、家族とのコミュニケーションを深める事も兼ね家族に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員を置くと共に、今も特養看護職員に確認している。また、嘱託医にいつでも相談できる体制をとっており、ご利用者様に合わせた看護が行えることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・グループホーム・病院で情報を共有し、対応している。介護計画も状況に合わせて変更している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と職員が話し合い、同じ思いを持って終末期の対応を行えている。介護計画も状況に合わせて変更している。また、かかりつけ医、特養の看護職員との情報交換ができています。その上で、状態の変化に備えた準備を行っている。	『ご縁を頂いた方は最後まで見て行く』ことを方針としている。新人・中堅・ベテラン職員で『死に対する捉え方』が違っているが、不安を抱える職員には、『看取りを利用者が選んでくれた』ことに感謝し、最期を迎える利用者への職員としての心構えを培っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、どの職員でも行えるようにしている。また、会議で取り上げ、実践をふまえて行い、見直しや復習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設とともに防災委員会を設置している。防災訓練を定期的に行い、防災についての打ち合わせも行っている。また、防災訓練の際には消防署と連携を取り行っている。	隣接施設と合同で、年2回の防災訓練を行い、ホーム単独で夜間想定避難訓練も実施している。利用者の避難時間・様子等問題を職員で検討し、運営推進会議で協議、今後に活かす取組を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様への言葉掛けについて職員同士がお互い意識している。また、会議で取り上げ、事例をふまえて研修を行っている。	職員はゆったりとした態度で、利用者一人ひとりの意向を尊重した言葉づかい・声かけを行っている。回想法を取り入れ、個人の尊厳を保持・維持できるように働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことができる言葉かけを職員が心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自分の役割や個性の表現の自由を配慮し、一人一人が満足する暮らしを目標として支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隣接施設内の床屋にて散髪が出来るが、希望に応じ、ご利用者様のなじみの床屋・美容院へ行けるよう支援している。衣類についても、本人が選ぶことができる店に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様からの意見も聞き、献立を作成している。ご利用者様と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備では、味見を依頼して教えてもらう姿勢で接し、利用者の意欲を引き出しながら食事作りをしている。又、職員は同じ食卓について同じ食事を摂り、会話も弾み和やかな食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員記録しており、栄養バランスについては、隣接施設の管理栄養士が確認と助言をしている。ご利用者様一人一人に合わせた摂取量を会議等で検討、見直しを行い、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方については、物品の準備から本人に行っていただいている。物品の準備が出来ない方には、口腔ケアが行えるよう物品をお渡しする等支援している。必要な方には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心・プライバシーに配慮し、安心できるような言葉掛けで対応している。また、排泄チェック表をもとに、排泄パターンに合わせた誘導を行っている。	排泄パターンの把握、体調の申し送り、利用者のしぐさ等に配慮しながら、さりげない声かけやトイレ誘導を行っている。トイレ誘導により、夜間帯の一人を除いてオムツなしで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに排泄周期を把握しながら、食材の工夫や体操を行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。また、季節ごとに菖蒲湯・ゆず湯などを行い、入浴からも季節を感じていただいている。	9～18時が入浴時間帯であり、週2～3回の入浴機会がある。特に入浴順序は決めておらず、入浴拒否の利用者にも無理強いせず、複数の職員で連携して声かけを行い、入りたい気分になる様に仕向けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の記録から、生活習慣の把握に努め、その時々状況に応じて生活リズムを崩さぬよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容・用量・副作用を処方箋をもとにまとめ、分かりやすくすることで、職員が把握できている。ご利用者様に合わせ服薬の支援を行い、症状や変化に合わせて主治医へ相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の馴染みある教室への参加。ホーム内でのレクリエーション参加での楽しみや、役割分担により頼りにされているという達成感を得ることが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添うことでの日中の外出を自由に行っている。また、ご家族様に対して、ご利用者様の希望などを伝え、行きたいところに出掛けられるよう支援している。	玄関が施錠されておらず、利用者が併設施設の広い中庭に出て行く際には、必ず職員が付き添っている。本館に行くことが外出気分になるので、本館の喫茶店に週1回行っている。月1回の外食ツアーも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様のご理解をいただき、ご利用者様に管理していただけるよう支援している。外出先での支払いをご自身にもらい、金銭管理の継続を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける事が出来る環境を整え、遠方にみえるご家族様に電話をしたり、はがきを用意し手紙のやり取りを行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く利用した造りの家で、家庭的な雰囲気である。また、季節に合わせた掲示物や、飾りつけなどを行っている。	共有空間には畳スペースもあり、ゆったりと明るく、家庭的な雰囲気を大切にしている。利用者が食前の作業や食後の下膳をする事を考え、通路には十分なスペースが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和みの空間として畳のスペースをすることによって、リビングとは違う雰囲気の中で落ち着いて過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に在宅で使われていた家具や道具を持ち込む事で、居心地よく過ごせる工夫ができています。	居室に畳を入れ、朝には自分で布団を挙げて押入れに入れたり、入居前に使用していた筆筒に洋服を収納する等、入居前の生活習慣を継続して寛げる部屋づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりもご利用者様の動きに合わせて設置している。食器拭き用のタオルなど色を統一するなどして、ご利用者様がわかりやすいようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700223		
法人名	一期一会福祉会		
事業所名	グループホーム岩倉一期一会荘 2ユニット		
所在地	愛知県岩倉市北島町七反田35番地		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	平成24年 4月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2374700223&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を多く持っている。「地域との交流を大切にしたい」との思いから、地元のお祭り、市民文化祭等へ参加している。また、1ヶ月に一度外出ツアーを企画しており、外へ出ることで季節ごとの景色を見たり、ご利用者様同士お話をしたりする喜びを感じていただいている。いつでも、ご利用者様が散歩に行くことができ、多くの方の日課となっている。毎日の生活において落ち着いた時間が流れており、家庭的である。家族会を定期的に開催している。会を重ねるごとに参加していただけるご家族様が増えてきており、準備からお手伝いしていただいたりと、ご家族様の協力を得られるようになってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく暮らしていただく一期一会の家」を理念として、管理者と主任と職員が日頃から話し合いを行っている。そして、ご利用者様に自分らしく暮らしていただく為にはどうしたらよいかを考え、実現している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、市の文化祭にも作品の展示を行うことで、地域の一員であることを知っていただくよう取り組んでいる。また、それまで住んでいた地域の喫茶店などに行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩倉市の認知症サポーター育成事業があり積極的に協力している。見学希望者の訪問も積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議にて前回の議事録を配布し、議題に挙げた検討課題の進行状況・結果等報告している。常にサービスの向上に活かすことが出来るよう努めており、家族会の内容にも意見を反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岩倉市が委託している介護相談員を受け入れており、意見の交換等を文章で残すことで、岩倉市の担当者も把握している。また、運営推進会議へも参加していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルの設置や、会議の議題として取り上げ、常に身体拘束がないよう注意を促し、勉強会を開き正しい理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待廃止のマニュアルの設置や、会議の議題として実際の事例を取り上げるなどして、常に虐待がないよう注意を促し、勉強会を開き防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされている方はいないが、必要があれば対応できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いて話し合える場所と時間を提供し、説明・契約を行っている。入居後も随時質問に対して、十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リビングにご利用者様の意見を受ける意見箱を設置し、意見があった際は、速やかに対応できるよう努めている。また、介護相談員が職員を通さずにご利用者様の苦情を聞ける環境が出来ており対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の採用等に関しても現場の意見を聞いて行っている。日頃から管理者との話し合いが行えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、半年ごとに目標シートを作成し、達成度を確認しながら助言し、向上心を持ち続けることが出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間中は各業務のマニュアルを配布し、指導者にも研修マニュアルを配布して、計画的に育成している。また、年に2回人事考課面接を行い、職員と共に課題を考え取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での交流をもとに、相互の問題点を話し合う日程や時間を設け、ネットワーク作りに取り組んでいる。また、相互の勉強会に参加する事で、現場の職員同士で意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の施設への見学を促し、ご利用者様との交流や職員との顔合わせを行っている。また、個別で話し合う場を提供し、不安の無いように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日程・時間を設定し、施設内外の情報や方針について話し合う場を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接施設との協力体制が確保されていることを伝え、サービス内容の説明も行っている。必要に応じ、サービス担当者にも同席してもらい、より詳細な内容を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご利用者様と向き合う姿勢をとっている。 共感し共に取り組む事で、日々の生活を支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の健康状態について、随時ご家族様への連絡・相談・報告を行い、協力を得られる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に本人の馴染みのある場所への外出を企画している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行うことにより、他者との交流を図っている。日常生活面では、食事作り・洗濯・掃除等をともに行うことが出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一期一会のご縁を頂いた方々なので、必要な場合には対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先している。出来る限りご利用様が自由に活動できるような職員体制となっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人ファイルに情報を収集し、過去の情報を見やすくまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常状況観察表を中心として、情報把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族様と相談し、介護計画を作成している。また、ご利用者様の希望も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常状況観察表と共に介護計画書を常に確認できる状態にしている。気づきや工夫においては、申し送り記入欄や連絡ノートにて情報を共有出来ており、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接施設があることの利点を生かし、様々な状況に対応している。また、ご家族様に一緒に泊まって頂ける環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の望まれるような慰問を受けたり、学校との文化交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療関係者の理解を得ており、診察、往診を受けることができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員を置くと共に、今も特養看護職員に確認している。また、嘱託医にいつでも相談できる体制をとっており、ご利用者に合わせた看護が行えることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・グループホーム・病院で情報を共有し、対応している。介護計画も状況に合わせて変更している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と職員が話し合い、同じ思いを持って終末期の対応を行っている。介護計画も状況に合わせて変更している。また、かかりつけ医、特養の看護職員との情報交換ができています。その上で、状態の変化に備えた準備を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、どの職員でも行えるようにしている。また、会議で取り上げ、実践をふまえて行い、見直しや復習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設とともに防災委員会を設置している。防災訓練を定期的に行い、防災についての打ち合わせも行っている。また、防災訓練の際には消防署と連携を取り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様への言葉掛けについて職員同士がお互い意識している。また、会議で取り上げ、事例をふまえて研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことができる言葉かけを職員が心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自分の役割や個性の表現の自由を配慮し、一人一人が満足する暮らしを目標として支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隣接施設内の床屋にて散髪が出来るが、希望に応じ、ご利用者様のなじみの床屋・美容院へ行けるよう支援している。衣類についても、本人が選ぶことができる店に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様からの意見も聞き、献立を作成している。ご利用者様と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員記録しており、栄養バランスについては、隣接施設の管理栄養士が確認と助言をしている。ご利用者様一人一人に合わせた摂取量を会議等で検討、見直しを行い、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方については、物品の準備から本人に行っていただいている。物品の準備が出来ない方には、口腔ケアが行えるよう物品をお渡しする等支援している。必要な方には介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心・プライバシーに配慮し、安心できるような言葉掛けで対応している。また、排泄チェック表をもとに、排泄パターンに合わせた誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに排泄周期を把握しながら、食材の工夫や体操を行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。また、季節ごとに菖蒲湯・ゆず湯などを行い、入浴からも季節を感じていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の記録から、生活習慣の把握に努め、その時々状況に応じて生活リズムを崩さぬよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容・用量・副作用を処方箋をもとにまとめ、分かりやすくすることで、職員が把握できている。ご利用者様に合わせ服薬の支援を行い、症状や変化に合わせて主治医へ相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の馴染みある教室への参加。ホーム内でのレクリエーション参加での楽しみや、役割分担により頼りにされているという達成感を得ることが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員が付き添うことでの日中の外出を自由に行えている。また、ご家族様に対して、ご利用者様の希望などを伝え、行きたいところに出掛けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様のご理解をいただき、ご利用者様に管理していただけるよう支援している。外出先での支払いをご自身にもらい、金銭管理の継続を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける事が出来る環境を整え、遠方にみえるご家族様に電話をしたり、はがきを用意し手紙のやり取りを行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く利用した造りの家で、家庭的な雰囲気である。また、季節に合わせた掲示物や、飾りつけなどを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和みの空間として畳のスペースをすることによって、リビングとは違う雰囲気の中で落ち着いて過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に在宅で使われていた家具や道具を持ち込む事で、居心地よく過ごせる工夫ができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりもご利用者様の動きに合わせて設置している。食器拭き用のタオルなど色を統一するなどして、ご利用者様がわかりやすいようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム岩倉一期一会荘

目標達成計画

作成日: 平成 24年 3月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	介護記録について、介護計画に沿った内容にしていくと前回の目標達成計画を立てたが、介護計画の見直し等に活用しきれていない。	介護記録を介護計画の見直しの為に役立てるようにしていきたい。	介護記録の見直しを行い書式の変更を行う。職員に介護記録の内容について周知徹底を行い、記入内容について確認していく。	6ヶ月
2	35	年2回の隣接施設との防災訓練は行えているが、グループホーム独自の定期的な防災訓練を行う事が出来ていない。	毎月1回、防災訓練を行ってきたい。	防災訓練の内容を、ご利用者様の避難誘導を行う内容の訓練だけでなく、連携内容の確認、災害発生時の職員の動きの確認等の訓練を行っていく。防災委員の職員を中心に毎月行えるよう計画を立てていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。